

第2章

海外生徒等との交流を通じた英語活用の実践と学び

三小田 博 昭

本校には毎年、海外から多くの高校生や研究者が来訪者する。彼らとの交流の機会を日常の英語学習の実践の場として活用している。SGH研究開発を開始して、海外研修にでる生徒の数も増えた。しかしながらその成果を活かし続ける場を持ち続けることが課題であった。年間を通して定期的に留学生と交流を持つことができることで、国内にいながらも生徒達は、英語を活用する機会を多く持つことができるようになっていく。また、英語を

使う機会が増えているだけではなく、さまざまな国の英語に触れることにより、日本語英語も英語の一種であるという自信を持つことができ、積極的に自分の英語で課外の生徒と交流することができるようになった。加えて、世界文化や、海外の同世代の高校生のもつ価値観に触れることで、自らの視野を大きく拡大することができる。以下は2018年度に訪問した海外からのゲスト一覧である。

2018年度 附属中・高等学校 海外生徒・研究者受け入れ一覧

日程	国名	高校生・大学生	引率、研究者など	備考 ※名古屋大学との連携が濃い取組
4月1日～2月末日	アメリカ	1		AFS (約 1年間)
5月23日(水)	イラン		3	教育学部関係
5月29日(火)	台湾	19	14	台北市龍山国民中学校 名古屋市観光協会関連
6月25日(月)～8月22日(水)	モンゴル	1	2	新モンゴル高等学校長期研修教員生徒
6月27日(水)	ベトナム	20	4	コクヨベトナム
6月29日(金)～7月6日(金)	アメリカ	9	9	SGHノースカロライナ
	中国	42	7	
7月3日(水)	ウズベキスタン	10	2	さくらサイエンス
	ブータン	10	2	
	モンゴル	10	2	
7月9日(月)～18日(水)	モンゴル	10	1	新モンゴル高等学校
	アメリカ	8		
7月10日(火)	イタリア	5		AFS
	ノルウェー	1		
	フィリピン	1		
	トルコ	1		
8月30(木)～	タイ	1		アジアの架け橋プロジェクト
9月26日(水)	インドネシア		22	インドネシアイスラム関係教育者 教育学部関係
10月11日(木)	ロシア	18		名大理事関係
10月30日(火)	スリランカ		6	教育学部関係
11月9日(金)	タイ	10	1	イオン1%クラブ 高校生アンバサダープログラム
1月16日(水)	韓国	17	7	韓国サイエンスアカデミー
1月29日(火)	台湾	24	1	愛知県観光協会
3月5日(火)	台湾	16	10	愛知県観光協会
3月7日(金)	インドネシア		40	教育学部関係
		234	133	

(1) 長期留学生受入れとホストファミリー

本校では、毎年継続して長期留学生を受入れている。窓口となっている外部団体はさまざまである。これはでは、公益財団法人AFS日本協会、YFU (Youth For Understanding)、WYS (World Youth Service) 等から留学生が本校に派遣されてきた。また、姉妹校提携をしている新モンゴル高等学校からも毎年2ヶ月間、留学生が本校を訪れる。

本校にくる長期留学生をホストファミリーとして、本校生徒が受入れている場合が多い。本校では、SGH保護者ボランティア制度を3年前に組織した。中高併せて600名という小規模校であるにも関わらず、毎年多くの保護者がボランティア制度に登録をしてくれる。ボラン

ティアの種類は、1. ホームステイ (長期・短期) 受入れ 2. 日本文化紹介 (茶道・華道他) 3. 通訳 (各種言語)、4. その他 のカテゴリーで募集する。

(2) アジア高校生架け橋プロジェクト

今年度から、「アジア高校生架け橋プロジェクト」の生徒を受入れている。今回は、タイから半年間来日した生徒である。高校1年の学年に所属した。学校行事にも積極的に参加し、東京で行われた「スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラム」にも参加した。次年度以降も積極的に「アジア高校生架け橋プロジェクト」の留学生を受入れていく方針でいる。

(3) 交流の一例：イオン1%クラブ 高校生アンバサダープログラム（相互交流）

受入れ期間：11月5日～11月12日 タイ高校生10名
(参加した生徒の声)

- ・11月に、日本プログラムで初めてバディにあったとき、お互いにネイティブスピーカーではないので緊張もあった。実際に話したくても何を話して良いかわからなかった。しかしそれでもそれぞれの言語で少しずつ交流を深めていきました。しだいに彼女との距離も近くなっていき、会話もだんだんとても楽しいものになっていきました。今回の活動でさまざまな体験ができコミュニケーションについて学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごせました。

(受入れた保護者の声)

- ・貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。受入れの前は不安なことが多く、心配しました。しかし、日々過ごしていくうちに異文化コミュニケーションが楽しいと感じられるようになりました。
- ・高校1年生という多感な時期に、このような貴重な経験をさせていただけることはありがたい。本人がさまざまなことに興味をもち、自分の将来像を重ねるきっかけとなると思います。

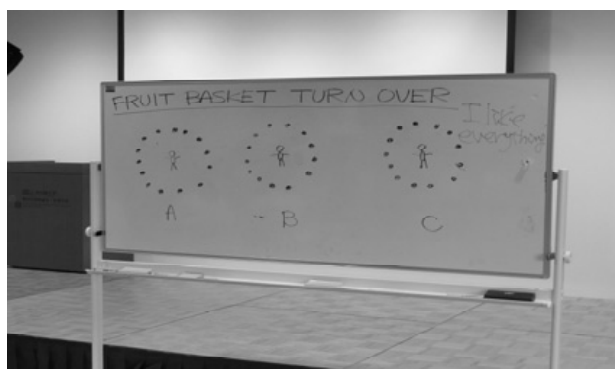


(4) その他のプログラム

クラスノヤルスクロシア交流 (日露交流協会) 2018.10.11



台北市龍山国民中学校2018.05.29



(文責 三小田博昭)